

第 15 回小樽港フィールド・ラーニングの開催について

北海道開発局 小樽開発建設部

令和 6 年 12 月 9 日、小樽港湾事務所において、第 15 回小樽港フィールド・ラーニングを開催しました。

●「小樽港フィールド・ラーニング」とは

小樽港は日本近代築港の原点であり、その第一に整備された北防波堤の計画から築造までの中での、計画的観点—将来の人口や地域の生産量の予測に基づく移出貨物量の推定、他のインフラ整備に呼応した投資の必要性など—と、技術的観点—耐海水性コンクリートの製作、波力に対し粘り強い防波堤構造など—は、今なお港湾整備の根幹となっています。

我が国初の近代築港の先駆けである小樽港において、その計画から築造までを手がけた廣井勇博士(初代小樽港湾事務所長)の工学の考え方と、人間廣井勇を育てた時代背景及び史実等を学ぶことは、港湾技術者としての意識、技術、知識、港湾を含む社会資本整備の計画及び説明力等の向上に効果的であり、小樽港(Otaru)で実物を見ながら(Field)習得(Learning)する意義は大きいと考え、「小樽港フィールド・ラーニング(O.F.L.)」を開催し、北海道開発局内外の関係者に講演いただく取組を行ってきました。

平成 24 年 1 月に初回、以降は年に 1 回のペースで、コロナ禍での中断を挟みつつ継続し、15 回目となる今回は、港湾・漁港の整備に関わる建設会社、コンサルタント及び開発局から約 50 名の参加を得ての開催となりました。

●第 15 回 O.F.L. の内容

(1)モルタルブリケットについて

まず、廣井博士がコンクリートの長期耐久性を確認するために残した「モルタルブリケット」について、その背景となった、小樽港北防波堤着工以前

に欧州等で問題となっていた当時のコンクリートの耐海水性と、問題解決のための廣井博士の取組を小樽港湾事務所から説明しました。

また、事務所会議室での説明後、モルタルブリケットのレプリカを用いた抗張力試験の実演も行いました。

(2)講演「これからの港湾技術者への期待」

後半は、(一社)寒地港湾空港技術研究センターで特別調査役を務める関口信一郎様より、「これからの港湾技術者への期待」と題し、廣井博士の足跡などを振り返りながら現代に求められる技術者の姿について講演いただきました。

人間にとって土木技術とは何か—単なる技術者ではなく土木技術者(シビルエンジニア)としての自覚と責任、システム化・分業化の時代に社会人として大切な視野や関心を狭めずに技術者をどう育成していくか、などについて、海外での技術開発の事例や、ご自身の経験(稚内マリンタウンプロジェクト、室蘭開発建設部での技術力向上の取組、プレキャストフォームケーソンや斜面スリット堤の開発など)も交えてお話いただき、最後にこれからの技術者へ期待すること、学びの大切さを説かれ、講演を締めくくりました。

(文責：久保)



モルタルブリケットについて(事務所)



モルタルブリケット抗張力デモ試験



これからの技術者への期待 関口特別調査役



これからの技術者への期待 関口特別調査役